

(件名) 地球規模でプレート運動や火山活動の活発化が起こっているため、その対策をすることを求める陳情

(陳情の趣旨)

2010年にアイスランドで大規模噴火があり、その翌年、日本で東北マグニチュード9地震が起こった。そして、今年、10月頃から再度アイスランドで大規模噴火が起こりつつある。世界的に有名なブルーラグーンも近隣での噴火の可能性があるということで現在封鎖中である。これ等のことは、アイスランドが大西洋中央海嶺の真上に位置している為、地球規模での火山活動、プレート運動の活発化を示唆していると思われる。

事実、2004年にスマトラ島沖でのM9、2011年には日本でのM9と超大型地震が近年続いている。更に、2022年1月にはフンガトンガハーパイでの海底火山噴火が1000年に一度の大噴火を起こしている。日本近海では、伊豆・小笠原での活動が非常に活発化していて、今年1月にはベヨネーズ列岩(明神礁)で噴火警報が出された。2013年から始まった西ノ島付近での噴火活動の結果、西ノ島は現在、元の大きさの約13倍にまで大きくなったとされている。福岡岡ノ場という海底火山では2021年8月に太平洋戦争後で最大級の噴火が発生した。

世界的に火山活動、プレート活動が活発化している。地球内部からの熱が人間の生活環境に最も大規模に出てくるところは海溝である。海溝は、海のプレートが陸のプレートや他の海のプレートの下へ沈み込んでいる境界であり、世界の海に広く分布している。海溝からマグマの熱が海水に伝わり、結果的に海水の温度が上がる。海面温度上昇が海面から大気への水蒸気の供給を増やし、大気も上がる。これが現在言われている地球温暖化の正体であり、二酸化炭素ガスの濃度増加はほぼ関係がない。何が問題であるかという点、大きな噴火は急激な寒冷化を引き起こすこと。非常に大きな噴火が起こると、大気中に噴火によるエアロゾルが大量に滞留し、それが日射を遮る。この為、一定レベル以上の火山噴火が起こると急激に地球全体が寒冷化する。更に、日本の場合、1605年慶長地震と同じ大津波を引き起こす地震発生が伊豆鳥島付近で切迫している可能性がある。実際にこの10月には小規模な津波が起こった。慶長地震は地震の揺れがほとんどなかったが大津波が発生した地震であり、地震ではなくて噴火が原因であるなら、この現象が無理なく説明できる。このことについて、海洋研究開発機構は、11月、伊豆鳥島近海で直径約6kmのカルデラを発見した。伊豆鳥島から八丈島近海での火山噴火による大津波発生の可能性があり、その場合、相模湾や東京湾沿岸部だけでなく、九州の沿岸部も津波被害を受けると言われている。

以上の趣旨により、下記のことを陳情する。

1. 世界的に温暖化が話題になっているが、巨大噴火によって寒冷化が急激に起こる可能性があることを県のサイトなどで述べて社会一般へ知らせること。
2. 伊豆鳥島付近での大津波を伴う噴火があり得、その場合、津波が九州沿岸部にも到達し被害が出る可能性があることを周知すること。

以上